

巻頭言



日本赤十字放射線技師会
常任理事 戸口 豊宏
(大分赤十字病院)

全国赤十字放射線技師会1200人強の会員の皆様、毎日の業務お疲れ様です。

まず、先の理事会に於いて、次回から各理事が輪番制で巻頭言を書きましょうという話になった。まずは、戸口さんからと深谷赤十字病院の清水理事から声をかけられ、巻頭言を書くようになりました。

さて、先の創刊50号記念誌の巻頭言で益井会長が記した「守・破・離」について、もう一度私なりに考えてみたいと思う。

「守」とは、基礎である。先人としての師の教えである型を守ることである。ただ先輩等の教えを守り、真似て、学んで、型の反復練習により学習する時である。成長等がはっきり見える時期である。この最初の、学習・学びの段階が「守」である。野球でいうと、小・中学野球までの基礎固めと考えて下さい。

「破」は、守で学習したもの(基礎)を、応用し自分なりに考え、型(技術)を深め、広げる時期である。成長し発展する為に、技を完全に身に付ける為に、未熟な型を打ち破る為に、研究・変革の段階が「破」である。そ

の為には、初心に帰り自らの学ぶ姿勢を作り素直に、謙虚に、自分なりに考え、思考錯誤を繰り返す時である。他の意見を素直に聞き、優れたものを認めることが必要であり、学び行動することである。次は、高校野球・大学野球と考えてもいいだろう。

「離」とは、物事に関して自由に、そして在りのままである。自然に、何事もでき意識する事無く、自由自在に出来る時である。その結果、それぞれの世界、その人自身の技術が、自然に創出される。この段階が「離」である。WBCで活躍した日本代表選手などは、これに当てはまるであろう。

昨年7月当院で、職員研修会が行われた。タイトルは、「やりがい論&キャリアデザインセミナー」講師は、田中和彦さんという方で、以前リクルート社広報室広報課長でリクルート事件担当された人で、現在は人材コンサルタント(採用・企業内研修・組織活性化など)兼コンテンツ・プロデューサー(映画・出版・広報誌など)として各方面で活躍中の方である。田中さんの講演の中で、最近の若い方たちは、カーリング世代というらしい。どういうことかという、ブラシで道を作らないと前に進まないことを言うそうだ。

我々も諸先輩方が作られた道を、ストーンのように進むのではなく「守・破・離」と実践していくこと、先人が築いた50年以上の歴史の中で良きものは踏襲し、改革すべきものは刷新する行動が必要と思う。いま我々は、紙からHP(ホームページ)へ、今までの型を破り、全国会員は、離しているがHPを通じて、会長巻頭言で言われたホットクロス計画による会員相互の連絡網補強、モットクロス計画による学術分科会による会員スキルの向上、そして、個々の創造を繰り返して行けば、日本赤十字放射線技師会の発展につながっていくことを信じている。